

取組の概要

対象畜種

採卵鶏

協議会構成員

畜産農家、耕種農家、倉敷かさや農業協同組合、笠岡市、岡山県備中県民局、井笠農業普及指導センター

飼料用米生産面積

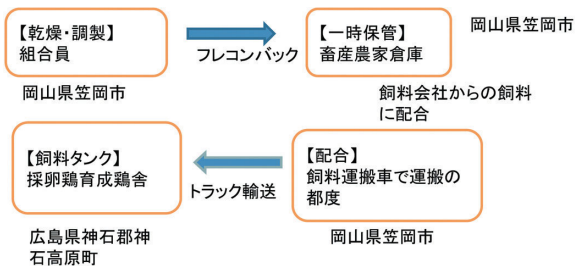
0.5ha

供試品種

タカナリ 0.5ha

取組内容

①飼料用米の流通、保管、調製に係る実証調査



- ◆主食用米との区分を図るため、生産者は組織に限定した栽培。
- ◆収穫物は、組合員の個人ミニライスセンターで乾燥・調製。粳5t(玄米4t)。
- ◆運搬は、畜産農家の倉庫で、飼料運搬車内に10%混合し、畜産農家の農場まで搬送。4回(11/28、12/2、12/8、12/12)

②飼料用米の給与による家畜・畜産物への影響調査
(畜産物の成分分析を含む)

試験設計：飼料用米を粳の状態、配合飼料に10%混合(玄米ベース)。
採卵鶏3.5万羽に対して8~12週齢まで給与。

調査項目：発育調査、死亡率調査、費用比較

取組によってわかったこと

1. 調製・保管・流通について、次のことがわかりました。

- 乾燥作業は一般米と同様であるが、一般米への混入を防ぐため、乾燥後の清掃を十分に行う必要がある。特にタカナリの粒形は、やや長粒であったため大変労力を要した。コンバインの清掃も同様であった。
- フレコンバックの運搬には、フォークリフト等が必要であるが、耕種農家、畜産農家ともに所有していたので、問題はなかった。
- 飼料運搬車内に配合するためには、10t車上までつり上げられるフォークリフトが必要であったことから、近隣の運送会社の機械を利用した。畜産農家の状況に応じた運搬・配合体系が必要である。

2. 家畜・畜産物への影響について、次のことがわかりました。

- 採卵鶏に粳の状態で給与したが、発育と体調に問題は見られなかった。また、糞の中にも粳殻・玄米が見られなかったことから、給与方法としては、粳の状態でも支障がないことが確認された。

3. 普及活動について、次のことがわかりました。

- 地域での認識が広まった。飼料用米を給与するという取組の意義(国産飼料であることや、水田の維持・活用ができること等)から、取り組み農家が拡大した。

4. 今後の飼料用米の取組予定などについて

- 平成18年から地域の畜産農家と耕種農家が連携して、飼料用米の研修会等を開催していたが、価格面等での大きな課題とともに関係機関等の支援体制等も十分ではなかった。
- 平成20年からは、各種事業、生産調整のメリット措置などの支援充実がなされたことから、組合を設立して栽培に取り組んだ。
- 今後は、徐々に組合員、生産面積の拡大をすすめ、地域全体での取り組みとしていきたい。

畜産農家 坂本産業株式会社
耕種農家 三宅 勝二、高崎 拓志
JA倉敷かさや笠岡営農センター 今城 真人